

子どもが育つ音楽プロジェクト

—ペラアントン校における聴取活動および即興ダンス—

教育学部 初等教育学科 井本 美穂

Keywords: 音楽教育、身体表現、社会的適応能力

1. 研究目的

本研究は、スペイン・カタルーニャ州グラノリエース市ペラアントン校の「子どもが育つ音楽プロジェクト」の実践内容を調査・研究し、日本の教育現場への援用の可能性を探るものである。

近年、日本の教育現場では、授業に集中できない、友達と協調して行動することができない、といった子どもへの対応が大きな課題となっている。ペラアントン校の音楽教育は、即興的な身体表現に重点を置いており、社会的能力と音楽的能力の双方の育成に重要な役割を果たしている。また、音楽活動によって、言語能力に課題のある移民の子どもや学習障害のある子どもも、自己存在感・他者受容感・自己決定感を感じる事が可能となっている。

2. ペラアントン校の音楽プロジェクト（音楽とダンス）

音楽の内容：エドガー・ヴィレムの音楽教育法が行われている。7種の鈴の音色を記憶し、聴き分ける活動、スライドホイッスルを用いて音程感覚を養う活動、五線に見立てて床にテープを貼りその上を歩くことで五線譜のシステムを学習する活動、および微分音の鉄琴を用いて鋭い聴取力を習得させる活動などがある。これらの活動を通して、音を知覚する能力および音楽表現力を高めるとともに、集中力を養っている。

ダンスの内容：動くスペースの使い方を意識する活動、ペアの相手の動きを模倣する活動、聴いた音楽に即興的に反応して身体表現する活動などを行っている。こうした活動により、子どもに自己と他者との相互作用を体感させるとともに、社会的な安心感や自信を獲得させている。



友達と同じ動きになってるかな？



集中して微妙な音の違いを聴こう



ベルの音の違いがわかった！

3. 応用先



ペラアントン校の音楽プロジェクトは、曲目を日本の子どもに対応したものにすることにより、日本の保育園・幼稚園および小学校においても実施可能である。また、高齢者にも無理のない範囲で実施することが考えられ、学校教育のみに限らず、広い分野での活用が期待できる。

広島大学附属三原幼稚園でプロジェクトを実践するペラアントン校の教員

連絡先 TEL: 086-256-9723, E-mail: imoto@ped.ous.ac.jp